

第2回 春日山原始林授業づくりセミナー 授業構想案の相互検討

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

■開催日時：2020年10月10日（土）10:00~12:00

■方法：対面（次世代教員養成センター1号館）とZOOMを用いたハイブリット形式

■参加者：現職教員等：山本（附属中）、河野、中澤（敦）

学生：江口

教育大：杉山、中澤、大西

■内容

授業構想案の検討

附属中山本先生より、授業案の提案・説明

（1）「春日山をシカが喰う現状を知り今後について考える」

0. 大台ヶ原を歩く
1. 春日山原始林についてのSDGsマップ作成（課題の整理）
2. 調べ学習をした上でのSDGsマップ作成
3. レクチャー資料作成
4. 食物連鎖ゲーム（体験）
5. 食物連鎖ゲーム（まとめ）
6. 前鬼モニタリング調査報告会
7. 春日山を歩く（奈良めぐり）
8. まとめ

■意見

○食物連鎖ゲームについて

・非常に面白いアクティビティ。現在は一般的な生態系の理解の学習だが、奈良公園版や春日山原始林版を考えると、さらに広がりが出てくるのではないか。

・現在は、自然（植物、鹿、狼）だけなので、人間の関わりを入れていくと良いのではないか。

・春日山原始林で考えれば、関係する対象を整理して、生徒たちに新たなゲームを発想させても面白いのではないか。

○授業の目的について

・春日山原始林は様々な要素が絡んでいるため、幅広く捉えることができる分、この授業で目指す目的の部分が曖昧になっているように感じる。

・理科的な捉え方が強いので、総合の授業で扱うのであれば、人とのつながりについても意識してはどうか。例えば春日山にとって鹿は負の影響が強いが、平坦部では、鹿を保護するための標識であったり、愛護会の活動があったり、鹿に関連した商売をしている人もいる。その部分を生徒たちにどう意識させるか。

・「鹿が悪い」という意識ではなく、どのようにバランスをとっていくかが重要であることへの気づきが必要。

・自然環境を守るといって、中学生くらいだと「自然をさわらない」という意識が強くあるかもしれないが、人が関わっていくことが重要であることに気づくことが必要ではないか。

○その他

・冒頭に大台ヶ原へのフィールドワークなどを入れている部分が良い。自然度が高い場所へ訪れて自然の雄大さなどを体験することで、以降の活動へのモチベーションが高まると感じた。

(2) 春日山を歩く 単元名「春日山をシカが喰う」

授業案の中の「7.春日山を歩く」の部分についての日程案・内容について検討した。

概要：

主題 春日山をシカが喰う

- 目標
- ・春日山を実際に歩き、自然を保護する立場にある人の説明や実際の状況を見て、シカの食害の状況やそれに関わる問題について知る。
 - ・春日山を歩きながら外来種を駆除、調節することを通して、自然環境への影響と人為的な駆除の難しさを体感する。
 - ・(環境保全に関わる人と出会い、人が関わることで初めて保全することができることを知る。)

() 部分は前段のディスカッションを通じて追加

- 春日山と春日大社についての説明を聞く
- 外来種の問題についての説明を聞く
- シカの食害についての説明を聞く
- 森林を楽しむ方法についての説明を聞く
- 防鹿柵内外の植物の違いについて知る
- どんぐりの採集を行う
- 若草山頂上で昼食

フィールドワークでは、保全に関わる人（市民団体、行政より委託を受けている事業者）も同行しサポートする。説明は、基本的に2年生が1年生に対して行い、同行者が補足する。また、歩きながら外来種ナンキンハゼの駆除を行う。

■意見

○フィールドワークの進め方について

・生徒40名が全員で移動する場合、意識が散漫になりがちなので、小グループを構成しておいたほうが良い。

○森林を楽しむ方法についてアイデア

・音以外に、目を閉じて光や風を感じるアクティビティなどもある。また、「葉っぱじゃんけん」などフィールドの植物などを活かした活動も考えられるのではないかな。

・グループで「コケ」「虫」「きのこ」「岩石」などテーマを分けて、それぞれでタブレットなど活用して写真を撮り記録してはどうか。

・現状のままだと、1年生がポイントを移動してそこで説明を受けるだけになってしまい、主体的に森を感じるところまでいけない可能性がある。そのため「お気に入り」を一つ見つけるなど、各個人が森の中で何かを探す行為があると良い。

・森の中で、見つけたものに対して、「なぜ自分はそれが良いと思ったか」について書かせてはどうか。

○どんぐりの採取について

・シカの食害と外来種をテーマにしているため、どんぐりの採取を行うと内容的に幅広くなっていく

ため、どんぐりの採取については、次年度以降に検討してはどうか。

(3) 感想・まとめ

・春日山原始林は、人と自然の関係について幅広いテーマで学ぶことができる。様々なつながりを意識すると、どんどん広がっていくため、授業で取り扱う際のテーマをきちんと整理しておくことが重要である。

・アイデアがいろいろな方向に広がっていくのは興味深い。関係性を学ぶゲームを中学生が作ることができたら、それを活用して修学旅行に訪れる生徒たちなどに対して実施していくのも良いのではないか。

・今回の授業提案は、理科の先生の提案だったが、自分が奈良公園周辺で実践した際は、どちらかというと文化や人の方に寄っていたので新鮮であった。

・全体を通じて、「バランスが大事」ということだと思う。その意識を生徒たちが気づくことができると良い実践になるのではないかと思う。